

# 「グローバル人材の4Pと国内ダイバーシティ」の推進

第一部第一席  
きむら あやこ  
木村 綾子さん  
(パナソニック)



はじめに、  
Product・Place・Promotionという4つの観点から論じる4Pというマーケティングの考え方が、商品の

50都市を訪れた。そこで出会ったビジネスリーダー達から、グローバル人材とはこれら4つの能力をバランス良く備えた人であると学んだ。海外市場へ急速な転換を求められている日本企業には4Pを備えた人材が必要であり、そんな人材を育てる土壌づくりが日本企業の課題である。一章でグローバル人材の4Pを、二章では日本企業を世界に誇る強い人材で構成するための提案をする。

① Professional (専門性)  
グローバルに活躍する人は国内外を問わず優れた

② Persuasive (説得力)  
グローバルに活躍する人は国内外を問わず優れた

③ Proactive (主体性)  
グローバルに活躍する人は国内外を問わず優れた

④ Proud (自尊心)  
グローバルに活躍する人は国内外を問わず優れた

⑤ Global Mindset (グローバルマインド)  
グローバルに活躍する人は国内外を問わず優れた

⑥ Cross-cultural Understanding (異文化理解)  
グローバルに活躍する人は国内外を問わず優れた

⑦ Innovation (イノベーション)  
グローバルに活躍する人は国内外を問わず優れた

⑧ Leadership (リーダーシップ)  
グローバルに活躍する人は国内外を問わず優れた

⑨ Teamwork (チームワーク)  
グローバルに活躍する人は国内外を問わず優れた

⑩ Communication (コミュニケーション)  
グローバルに活躍する人は国内外を問わず優れた

日刊工業新聞社は経済産業省、日本商工会議所などの後援を得て、2012年度の新入社員を対象とした「第35回フレッシュアズ産業論文コンクール」を実施しました。「あすの企業を考える」「中堅・中小企業の将来像を考える」をテーマに毎年実施しているもので、応募数は115社から812編。グローバル化が急速に進み、海外企業との競争が厳しくなる中で、いかに国際的な人材を育成し、イノベーションや新産業を創出していくか、といった内容の作品が数多く見られました。その中から経済産業大臣賞(第一部第一席)、日本商工会議所会長賞(第二部第一席)など優秀作に選ばれた14編の入賞論文を紹介します。表彰式は21日、東京都千代田区飯田橋のホテルグランドパレスで開かれます。

## あすの企業を考える

～本社主催～

身体的な強靱さが必要である。加えて現地の言葉も環境や人のせいにならずに、自分自身をコントロールし、自ら状況を変えようとする前向きでブレない強さがグローバルリーダーに必要な精神である。

① 国内の多国籍化  
グローバル人材の育成に必要なのは、国内の多国籍化である。国内に居ながら、グローバルな視点で考えることが、第一歩である。その中で、第一歩を確保、育成するために必要な日本企業の在り方を考える。

② 海外での自立経験  
グローバル人材の育成に必要なのは、海外での自立経験である。海外で生活し、異文化を理解し、コミュニケーション能力を高めることが、第一歩である。その中で、第一歩を確保、育成するために必要な日本企業の在り方を考える。

③ 異文化理解  
グローバル人材の育成に必要なのは、異文化理解である。異文化を理解し、コミュニケーション能力を高めることが、第一歩である。その中で、第一歩を確保、育成するために必要な日本企業の在り方を考える。

④ イノベーション  
グローバル人材の育成に必要なのは、イノベーションである。イノベーションを創出するために必要な日本企業の在り方を考える。

⑤ リーダーシップ  
グローバル人材の育成に必要なのは、リーダーシップである。リーダーシップを発揮するために必要な日本企業の在り方を考える。

⑥ チームワーク  
グローバル人材の育成に必要なのは、チームワークである。チームワークを発揮するために必要な日本企業の在り方を考える。

⑦ コミュニケーション  
グローバル人材の育成に必要なのは、コミュニケーションである。コミュニケーション能力を高めるために必要な日本企業の在り方を考える。

⑧ 柔軟性  
グローバル人材の育成に必要なのは、柔軟性である。柔軟性を高めるために必要な日本企業の在り方を考える。

⑨ 学習能力  
グローバル人材の育成に必要なのは、学習能力である。学習能力を高めるために必要な日本企業の在り方を考える。

⑩ 社会貢献  
グローバル人材の育成に必要なのは、社会貢献である。社会貢献を促進するために必要な日本企業の在り方を考える。

## 2012「フレッシュアズ産業論文コンクール」第一部入賞論文

### 日本の立ち位置に危機感共有



相澤益男委員長 日本国際存在感が危ぶまれている中、京都大学の山中伸弥教授がノーベル生理学医学賞に輝いた。iPS細胞(万能細胞)の発見から、わずか数年での受賞という異例の速さである。日本発の科学技術が世界をリードする絶好の機会である。グローバル時代を突き進む若い人々へのインパクトは、もはや知れない。

「第35回フレッシュアズ産業論文コンクール」第一部の最終審査は、4段階の審査で選抜された20編の応募論文を対象に行われた。その大半はグローバル化をテーマとしたものであり、世界における日本の立ち位置に危機感が共有されていた。

審査員の目は、「訴えるポイントは何か、そのオリジナリティは?」「根拠となるエビデンスは何か」に、まず向けられる。この段階で、相当数が国外とされてしまふ。続いて、全体的な評価と評価された。

「第35回フレッシュアズ産業論文コンクール」第一部入賞論文の審査員は、

審査員の名前は、

審査員の名前は、

審査員の名前は、

審査員の名前は、

審査員の名前は、

審査員の名前は、

### 既成概念を打ち破ってこそ若者



椎名武雄副委員長 近年若者の保守化傾向・内向志向を云々する論調がある。そう思っているが、今年度の審査だったが、憶測を大きく覆す論文に多く接したいへん嬉しい。

「第35回フレッシュアズ産業論文コンクール」第一部入賞論文の審査員は、

審査員の名前は、

審査員の名前は、

審査員の名前は、

審査員の名前は、

審査員の名前は、

審査員の名前は、

審査員の名前は、

| 【第一部 審査委員】(順不同) |                                   |
|-----------------|-----------------------------------|
| 委員長             | 相澤 益男氏 (総合科学技術会議議員)               |
| 副委員長            | 椎名 武雄氏 (日本IBM名誉相談役)               |
| 委員              | 奈須野 太氏 (経済産業省経済産業政策局参事官 産業人材政策担当) |
|                 | 坪田 秀治氏 (日本商工会議所理事・事務局長)           |
|                 | 井上 洋氏 (経団連社会広報本部長)                |
|                 | 藤巻 正志氏 (経済同友会執行役)                 |
|                 | 水藤 几信氏 (日本能率協会顧問)                 |
|                 | 松川 昌義氏 (日本生産性本部理事長)               |

### 努力賞

ダイバーシティ・マネジメントの追求にあたる企業が生み出した、急成長を遂げるイノベーションと共にチヨバの精神を、赤松洋平(日鉄鉱業) ネットワーク強化で企業競争力を高める中川裕介(インテリジェン) 企業活性は食育から生まれる「荒井祐貴子(山崎製パン) 利他を意図させる取り組みと忍耐力の強化「佐用敦(富士通フロンテック) 日本の変化をまたすための企業のあるべき姿とは「黒川南(富士ゼロックス情報システム) 競争から共創へ「企業事業利益と社会貢献の両立に向けて「戸田敏平(ライオン商事) 社会とのつながりの中における企業と社員像「木村圭一(四国電力) 若手社員教育を支えること「日本の企業「松本洋子(センコ) 生産拠点の海外移転における日本人のものとづくりに対する思いの伝承「森谷晃介(ヤマハ発動機) 日本のおもてなし力の世界へ「野崎一宏(中部電力) 銭湯に学ぶ「ユニケーションから生まれる企業競争力「山田邦仁(富士通九州システム) 学校と企業の協業による人材育成「岡本也(安川電機)

### 奨励賞

震災から学んだこれからの日本の製造業のあり方「根本真弓(NECトリーキン) 正しい経営判断のためのダイバーシティ形成「大西空摩(アライ) 多機能家電産業を反響する「地葉原太(三井物産) こだわりによる品質と独自性で差別化を「五十嵐康雄(日本電設工業) コミュニケーションの重要性「佐藤利明(アルコグラフィックス) マニュアル社会で臨機応変に生きる「長田朋子(AD EKAクリンエイト)

技術大国の復興「西田浩平(NEC) 考え続けることで未来を切り開く「星野達也(日本電子) 変化する企業の役割と「コバレト・ガバノ(江崎電機) 次世代の企業「日立物流「近年の不祥事を考える企業「方「杉永雅斗(JNC) 真に労働環境が動きやすい労働環境を目指して「山田仰(東電電気保安協会) 企業海外組織における人材開発と人的資源管理「周(金子産業) 人にやさしい企業と技術「草野翔(コア) 非資源国日本「磯貝二郎(栗本建設) 自衛型人材が求めている「陳海賢(堀場エステック) 企業が求める自律型人材とは「岡智哉(東洋炭素) グローバルにつながる「イノベーションを活かす「楊青(森精機製作所) 帆船に学ぶ「グローバル化「中島麻菜美(TYK) 心と技術の連携「吉村卓(キヤロイ技術) 日本企業が目指すべき「グローバル文化企業「川合吉乃(中部電機) 中国人から見る日本企業の中国進出について「張超(正興電機製作所) (敬称略)

### 参加・協賛企業

IHI

あおみ建設

朝日急送

朝日プリンテック

ADEKAクリーンエイド

有馬グランドホテル

アルゴグラフィックス

アルバック

イサハヤ電子

一条工務店山陰

インテリジェンス

エイチアンドエフ

江崎グリコ

NEC

NECTオーキン

エヌティーツール

MCOR

エム・ソフト

(順不同)

## 第35回 フレッシュアズ産業論文コンクール

